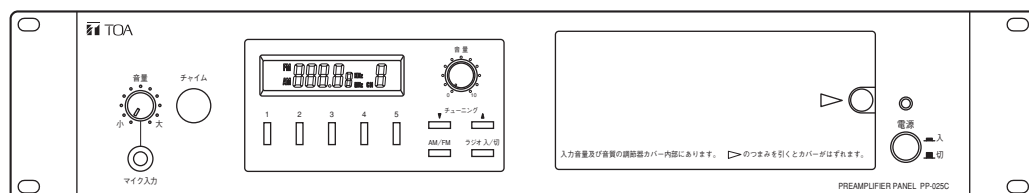


プリアンプパネル

PP-025C

プリアンプパネル組込用ラジオチューナー

DT-240 (別売品)



図は、PP-025C に別売のプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を組み込んだものです。

このたびは、TOA プリアンプパネルをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

安全上のご注意	3
概 要	5
使用上のご注意	5
各部の名称とはたらき	6
前面	6
後面	8
調節器カバーの取り外しかた	9
業務放送のしかた	10
マイクによる案内放送	10
ラジオ放送のしかた（別売の DT-240 組み込み時のみ）	12
設置のしかた	15
チャイム音の選択のしかた	15
プリアンプパネル組込用ラジオチューナー	
DT-240（別売品）の取り付けかた	16
平衡型トランス IT-450 の取り付けかた	18
キャビネットラックへの取り付けかた	19
接続のしかた	20
非常／業務兼用システムの場合	20
業務専用システムの場合	21
調節のしかた	22
音量・音質の調節	22
ミュートレベルの調節	23
チャイム放送音量の調節	24
入力レベル切換スイッチの設定	25
仕 様	27
プリアンプパネル PP-025C	27
プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240（別売品）	28

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
				
分解禁止	禁 止	接触禁止	強 制	電源プラグを抜け



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁 止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁 止

落雷防止の対策をする

避雷針から 5 m 以上離し、避雷針の保護範囲（45° 以内の角度）に取り付けるなど落雷を防止する対策をしてください。
落雷により、火災・感電・けがの原因となります。



強 制

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落したり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁 止



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。感電の原因となります。



接触禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

工事は販売店に相談する（DT-240 組み込み時）

アンテナ工事は、技術と経験が必要です。販売店にご相談ください。適切な工事を行わないと、アンテナが倒れて、感電・けがの原因となることがあります。



強制

ラックに取り付けるときの注意

次のことを必ずお守りください。

守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。
- 本機に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。



強制

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



強制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

定期的に内部の掃除をする

内部の掃除については、販売店にご相談ください。

内部にほこりがたまったら長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。



強制

概 要

EIA 規格に適合するラック（パネル幅 483 mm）に取り付けできる 2U サイズのプリアンプです。

入力が 8 系統あり、優先機能を持っています。

チャイムユニットを内蔵しており、前面スイッチの操作または外部からの制御により、チャイム音を放送します。また、内部切換スイッチの設定でチャイム音の種類を選択できます。

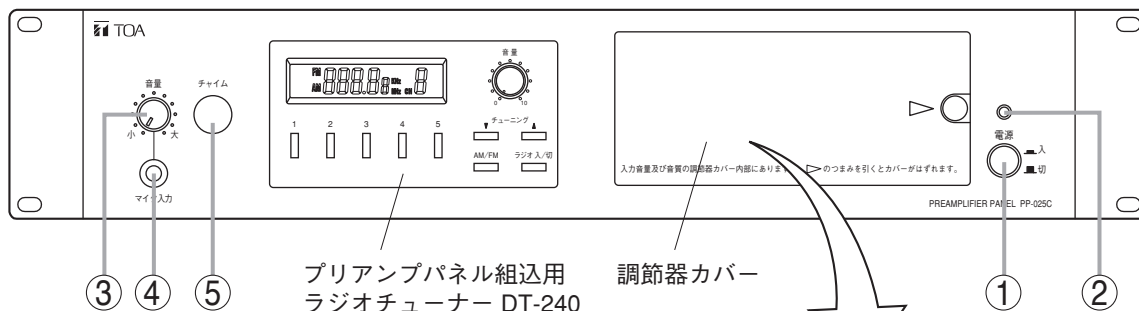
別売のプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を組み込むことができます。

使用上のご注意

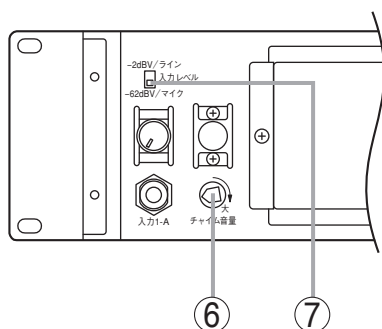
本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。

各部の名称とはたらき

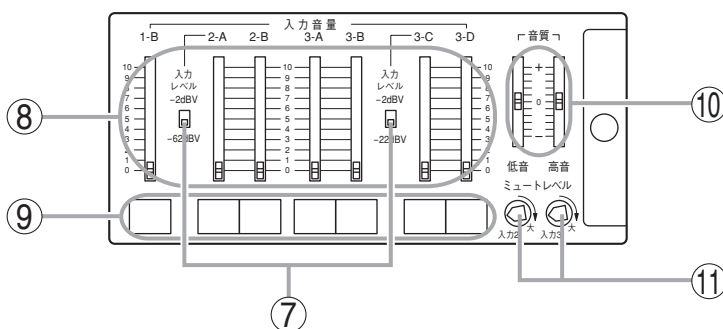
【前面】 ※ 図は、PP-025C に別売のプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を組み込んだものです。



● 前面パネル内部



● 調節器カバー内部



1. 電源スイッチ

押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

2. 電源表示灯

電源を入れると点灯します。

3. マイク／ライン音量つまみ（入力 1-A 用）

入力 1-A の放送音量を調節します。
時計回りに回すと、音量が大きくなります。

4. マイク／ライン入力ジャック（入力 1-A）

マイクまたは外部機器からのホーンプラグを差し込みます。
入力レベル：-62 dB * / -2 dB * 切換式、600 Ω、平衡型

メ モ

- 後面にも入力 1-A（入力 1 群 入力ホーンジャック⑮）がありますが、このマイク／ライン入力ジャック④にホーンプラグを差し込むことにより、後面の入力 1-A が切れます。（前面の入力が優先）
- 入力レベルは、工場出荷時の -62 dB *（マイク）から -2 dB *（ライン）に切り換えることができます。切り換えは、前面パネルを外して、入力レベル切換スイッチ⑦で行います。（P. 25）

5. チャイムスイッチ

押すと、チャイム放送ができます。
チャイム音は、4 種類のうちから 1 つを選択できます。（P. 15）

6. チャイム音量調節器

チャイムの音量を調節します。（P. 24）

ご注意

外部チャイム使用時は、この音量調節器⑥を最小にしてください。

7. 入力レベル切換スイッチ

入力 1-A、2-A、3-C の入力レベルを切り換えます。

- 入力 1-A：-2 dB * / -62 dB *（P. 25）
- 入力 2-A：-2 dB * / -62 dB *（P. 26）
- 入力 3-C：-2 dB * / -22 dB *（P. 26）

ご注意

放送中は触れないでください。
ノイズ発生の原因となります。

8. 入力音量調節器

各入力（1-B、2-A、2-B、3-A～D）の音量を調節します。入力 2-A と 3-C には、入力レベル切換スイッチ⑦があります。

メ モ

優先は、入力 1 > 2 > 3 の順になっています。（P. 23）

* 0 dB = 1 V

9. 入力表示ラベル貼付部

付属の入力表示ラベルを貼り付けてください。

10. 音質調節器

放送音質を調節します。

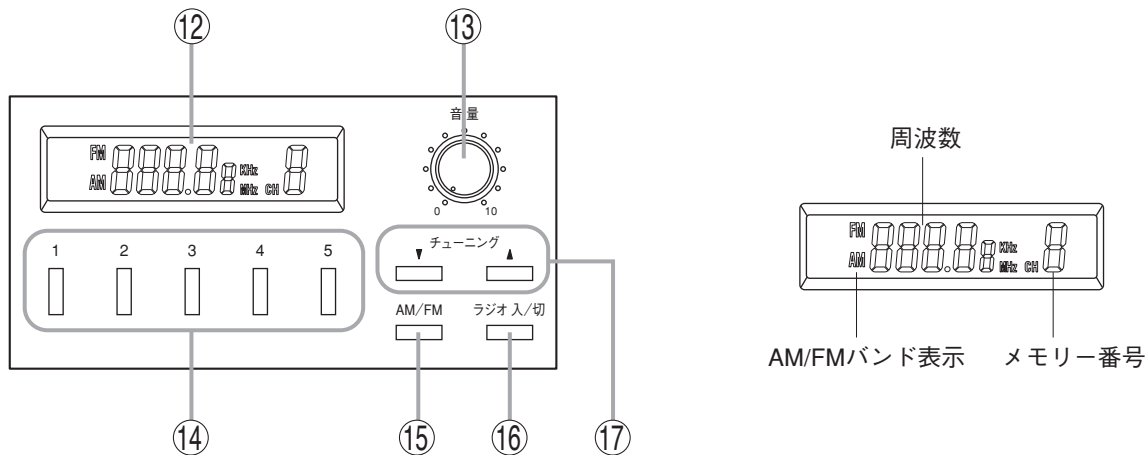
11. ミュートレベル調節器

優先順位の高いものの放送が入ったときのミュートレベル（減衰量）を調節します。

ご注意

放送中は触れないでください。
音量が不安定になります。

● プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240（別売品）



12. 周波数／メモリー番号表示部

AM/FM バンド、受信周波数、およびメモリー番号を表示します。この表示が消えているとき、ラジオは動作していません。

13. ラジオ音量つまみ

ラジオの音量を調節します。
時計回りに回すと、音量が大きくなります。

14. メモリー／選局キー

AM、FM を各 5 局メモリーできます。
押すと、記憶されている放送局の周波数とメモリー番号が、周波数／メモリー番号表示部⑫に表示されます。3 秒以上押し続けると、表示部⑫に表示されている周波数が記憶され、同時に記憶したメモリー番号も表示されます。

15. AM/FM バンド切換キー

受信するバンドを切り換えるときに押します。
押すたびに、AM 放送と FM 放送が切り換わります。

16. ラジオ入／切キー

押すと、ラジオが動作し、周波数／メモリー番号表示部⑫の表示が現れます。

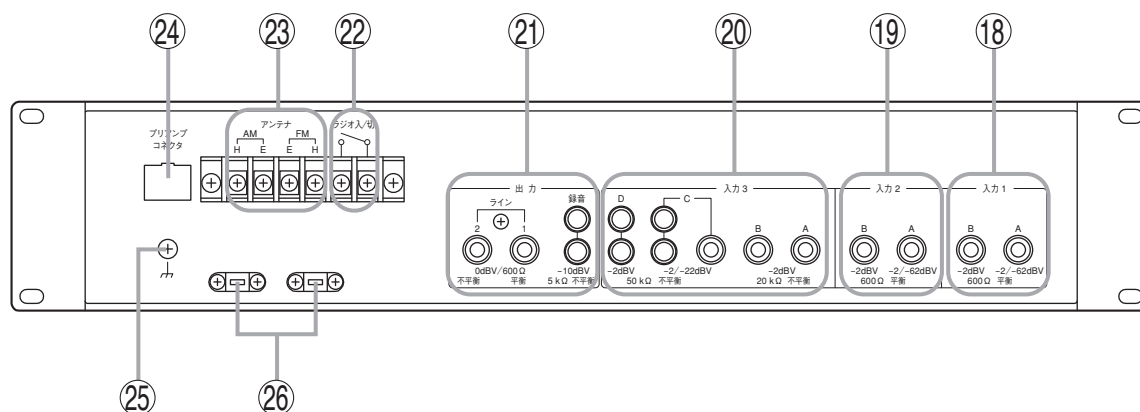
17. チューニングキー

放送局を選局するときに押します。
押すと、自動的に周波数が変化し、放送を受信するとその周波数で止まります。
希望する放送局と異なる場合は、もう一度キーを押してください。

ラジオは、本機の電源を「切」にする直前の状態を保持します。

（例）ラジオが「入」の状態、本機の電源を「切」から「入」にすると、ラジオは「入」になり、電源を「切」にする直前に受信していた放送局の受信状態になります。

[後面]



18. 入力1群 入力ホーンジャック

入力1-Aおよび1-Bがあります。

前面にも入力1-A（マイク／ライン入力ジャック④）がありますが、前面の入力ジャックにホーンプラグを差し込むことにより、後面の入力1-Aが切れます。（前面の入力が優先）

また、入力レベルは工場出荷時の -62 dB^* （マイク）から -2 dB^* （ライン）に切り換えることができます。切り換えは、前面パネルを外して、入力レベル切換スイッチ⑦で行います。（P. 25）

19. 入力2群 入力ホーンジャック

入力2-Aおよび2-Bがあります。

入力2-Aは、調節器カバー内の入力レベル切換スイッチ⑦で $-2\text{ dB}^*/-62\text{ dB}^*$ の切り換えができます。

20. 入力3群 入力ホーン／ピンジャック

入力3-A、3-B、3-Cおよび3-Dがあります。

入力3-Cは、調節器カバー内の入力レベル切換スイッチ⑦で $-2\text{ dB}^*/-22\text{ dB}^*$ の切り換えができます。

入力3-A、3-Bはホーンジャック、入力3-Cはホーンジャック＋ピンジャック（共通接続）、入力3-Dはピンジャックになっています。

入力3-C、3-Dのピンジャックは、ステレオ機器を接続してもミキシングされてモノラルになります。

メ モ

各入力間の優先は、入力1群＞入力2群＞入力3群になっています。

21. 出力ホーン／ピンジャック

録音出力、ライン出力1・2があります。

録音出力（モノラル出力）はピンジャック、ライン出力1・2はホーンジャックになっています。録音出力には、ライン出力1と同じ信号が出力されます。

ライン出力1には入力1群、入力2群、入力3群がミキシングされて出力され、ライン出力2には入力3群が出力されます。ただし、ライン出力2を使用しているときは、ライン出力1の

出力は入力1群、2群のミキシングされた出力となります。

22. ラジオ入／切りモート端子

プリアンプパネル組込用ラジオチューナーDT-240（別売品）を組み込んだ際に外部からラジオの入／切を遠隔操作するときに接続します。外部からのラジオの入／切を遠隔操作しないときは、端子間に装着されているショートピースはそのままにしておきます。

ご注意

ラジオチューナー組み込み時のリモート入／切の制御は、無電圧メイク接点で行います。プログラムタイマーで制御する場合は、別売のTT-6803RMEを使用してください。

23. アンテナ端子

プリアンプパネル組込用ラジオチューナーDT-240（別売品）組み込み時のアンテナ用端子です。

ご注意

ラジオチューナーを組み込むときは、必ずアンテナの接続が必要です。アンテナ線には5C-2V同軸ケーブルを使用してください。

24. プリアンプコネクター

付属のケーブルを使って接続します。

（P. 20、P. 21）

25. 機能アース端子

本機に外部機器を接続してノイズが多いときは、この端子と外部機器の機能アース端子を接続してください。

ノイズが少なくなることがあります。

※ 安全アースではありません。

26. コードバンド

プリアンプパネル組込用ラジオチューナーDT-240（別売品）組み込み時に、アンテナ線を固定するための金具です。

* $0\text{ dB} = 1\text{ V}$

[入／出力表]

			レベル	ジャック	インピーダンス
入力	1	A	-2 dB ^{*1} /-62 dB ^{*1} 切換式	ホーンジャック	600 Ω、平衡型
		B	-2 dB ^{*1}	ホーンジャック	600 Ω、平衡型
	2	A	-2 dB ^{*1} /-62 dB ^{*1} 切換式	ホーンジャック	600 Ω、平衡型
		B	-2 dB ^{*1}	ホーンジャック	600 Ω、平衡型
	3	A	-2 dB ^{*1}	ホーンジャック	20 kΩ、不平衡型
		B	-2 dB ^{*1}	ホーンジャック	20 kΩ、不平衡型
		C	-2 dB ^{*1} /-22 dB ^{*1} 切換式	ホーンジャック +ピンジャック (モノラル)	50 kΩ、不平衡型
		D	-22 dB ^{*1}	ピンジャック (モノラル)	50 kΩ、不平衡型
出力	録音		-10 dB ^{*1}	ピンジャック (モノラル)	5 kΩ、不平衡型
	ライン	1	0 dB ^{*1}	ホーンジャック	600 Ω、平衡型
		2	0 dB ^{*1}	ホーンジャック	600 Ω、不平衡型 ^{*2}

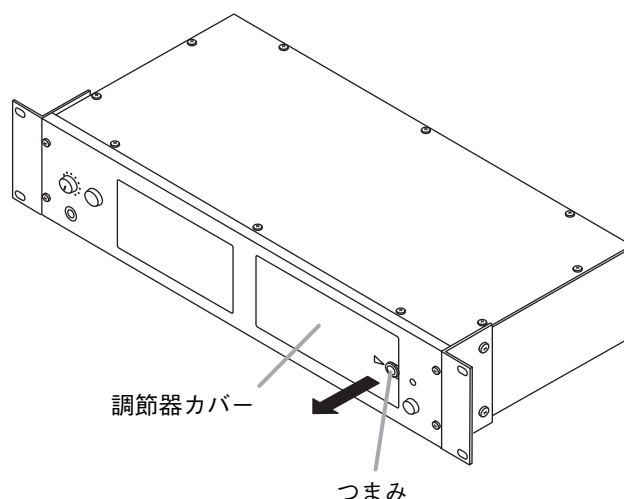
*1 0 dB = 1 V

*2 別売の平衡型トランス IT-450 を使って平衡型に変更できます。

調節器カバーの取り外しかた

● 取り外しかた

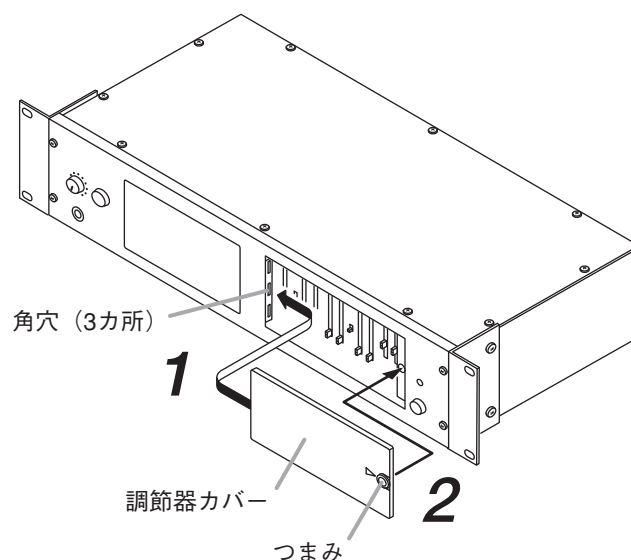
前面の調節器カバー右側のつまみを矢印方向に引いて、カバーを外します。



● 取り付けかた

1 調節器カバー左側のツメ (3カ所) を、前面パネルの角穴に差し込む。

2 カバーを定位置にし、右側のつまみを押し込む。



業務放送のしかた

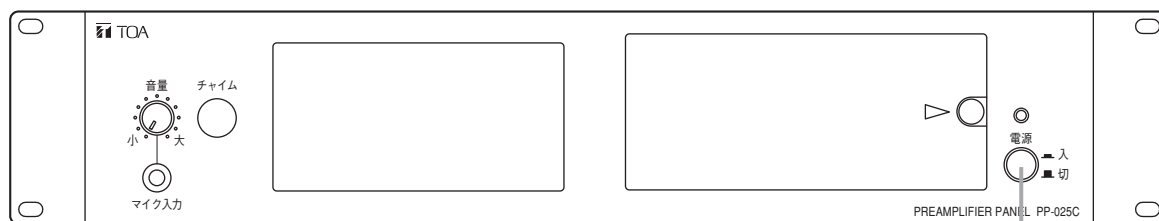
■ マイクによる案内放送

ご注意

- 前面のマイク／ライン入力ジャックにマイクのホーンプラグを接続した場合は、後面の入力 1-A に接続されている入力が切れます。
- 本機およびパワーアンプの電源が OFF でも、放送場所の選択ボタンを押すと自動的に ON になりますが、電源が入ってから放送可能な状態になるまで約 1 秒かかります。この間に放送すると、頭切れを起す可能性があります。急いで放送したい場合は、まず本機の電源を入れる（パワーアンプの電源も連動して入る）ことをお勧めします。

1 電源スイッチを押して（）、電源を入れる。

パワーアンプなどシステム機器の電源も連動して入ります。



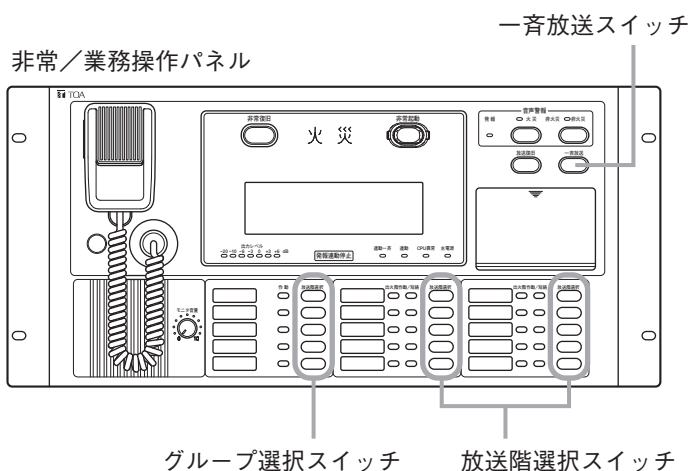
電源スイッチ

2 放送場所を選択する。

2-1 非常／業務兼用システムの場合

非常／業務操作パネルで操作します。
放送したい場所により、次のスイッチを押します。

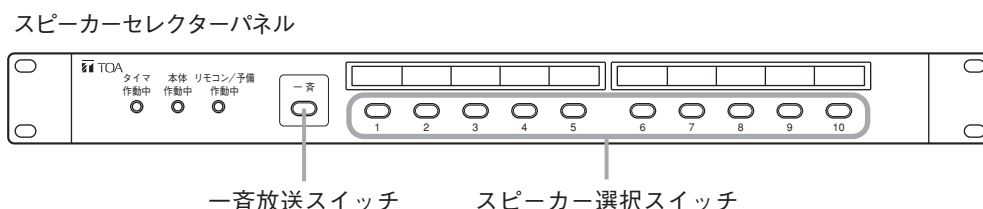
一斉放送 : 一斉放送スイッチ
グループ放送 : グループ選択スイッチ
個別放送 : 放送階選択スイッチ



2-2 業務専用システムの場合

スピーカーセクターパネルで操作します。放送したい場所により、次のスイッチを押します。

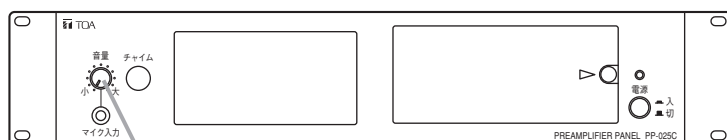
一斉放送 : 一斉放送スイッチ
個別放送 : スピーカー選択スイッチ



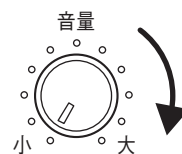
一斉放送スイッチ

スピーカー選択スイッチ

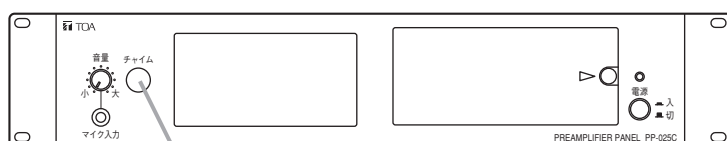
- 3** 前面のマイク／ライン音量つまみで、マイクの音量を上げる。
時計回りに回すと、音量が大きくなります。



マイク／ライン音量つまみ



- 4** 前面のチャイムスイッチを押す。
チャイム音が放送されます。(参照 P. 15「チャイム音の選択のしかた」)

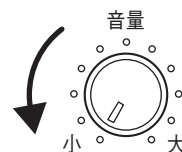


チャイムスイッチ



- 5** マイクで放送する。

- 6** 放送終了後、マイク／ライン音量つまみでマイクの音量を下げる。
反時計回りに回し切ります。

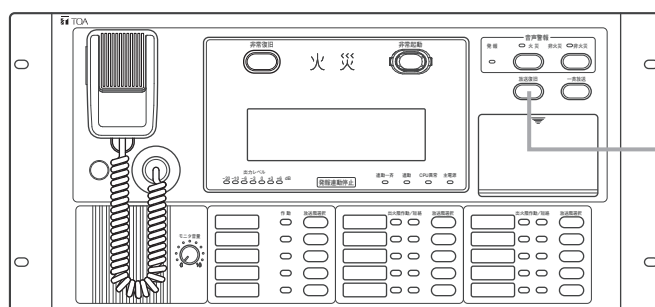


- 7** 放送場所を解除する。

7-1 非常／業務兼用システムの場合

非常／業務操作パネルの放送復旧スイッチを押します。

非常／業務操作パネル



放送復旧
スイッチ

7-2 業務専用システムの場合

スピーカーセクターパネルで操作します。

手順 2-2 で選択した放送場所のスイッチをもう一度押します。

一斉放送：一斉放送スイッチ
個別放送：スピーカー選択スイッチ

- 8** 本機の電源スイッチを押して (■)、電源を切る。
パワーアンプなどシステム機器の電源も連動して切れます。

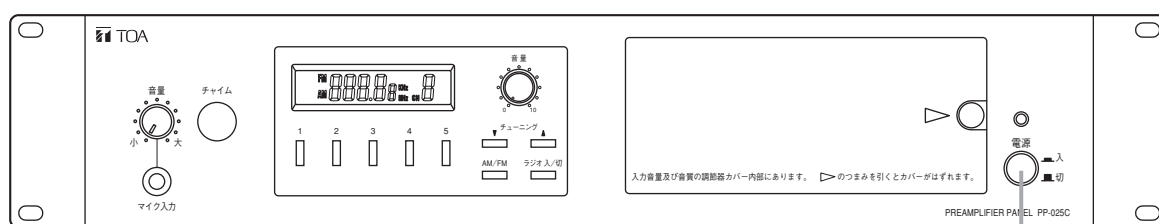


■ ラジオ放送のしかた（別売の DT-240 組み込み時のみ）

ご注意

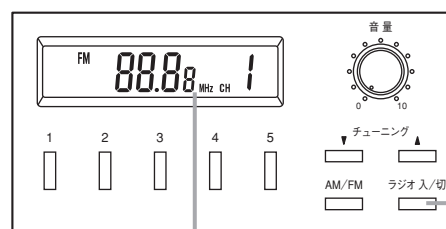
- 本機の電源が入っていないと、ラジオは動作しません。
- ラジオの音声は、入力 3 に設定されています。
- ラジオは、本機の電源を「切」にする直前の状態を保持します。
（例）ラジオが「入」の状態、本機の電源を「切」から「入」にすると、ラジオは「入」になり、電源を「切」にする直前に受信していた放送局の受信状態になります。
- 後面のラジオ入／切りリモート端子を接続している場合は、リモート接点が ON のときにラジオ入／切キー（ラジオチューナー部前面）を押して、ラジオを動作状態にしておいてください。

- 1 電源スイッチを押して（）、電源を入れる。
パワーアンプなどシステム機器の電源も連動して入ります。



電源スイッチ

- 2 ラジオ入／切キーを押す。
周波数／メモリー番号表示部が表示され、ラジオが動作状態になります。

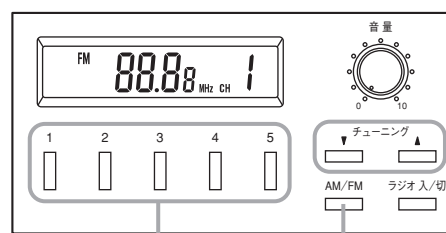


周波数／メモリー番号表示部

ラジオ入／切キー

- 3 希望する放送局を受信する。

- 3-1 AM/FM バンド切換キーを押して、AM 放送か FM 放送かを選択する。
押すたびに AM/FM バンド表示が切り換わります。



メモリー／選局キー

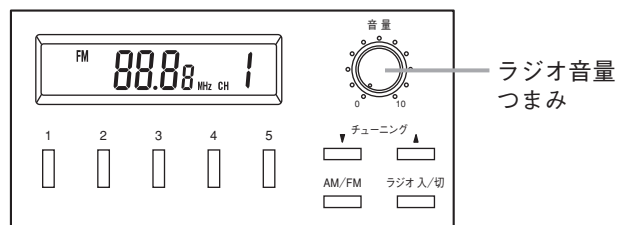
チューニングキー

- 3-2 チューニングキーを押して、希望する放送局の周波数に合わせる。

メ モ

- ▼キーを押すと、AM 放送は 9 kHz ずつ、また FM 放送は 0.1 MHz ずつ自動的に受信周波数が下がっていき、放送を受信すると止まります。選局中に再度 ▼キーを押すと、選局を中止します。
同様に ▲キーを押すと、AM 放送は 9 kHz ずつ、また FM 放送は 0.1 MHz ずつ自動的に受信周波数が上がっていき、放送を受信すると止まります。選局中に再度 ▲キーを押すと、選局を中止します。
- メモリーのしかたについては、「受信周波数のメモリーのしかた」（ P. 14）をお読みください。

- 4** ラジオ音量つまみで、適切な音量に調節する。
非常／業務操作パネル、またはモニターパネル（MP-011 など）のモニタースピーカーで試聴しながら、適切な音量に調節します。

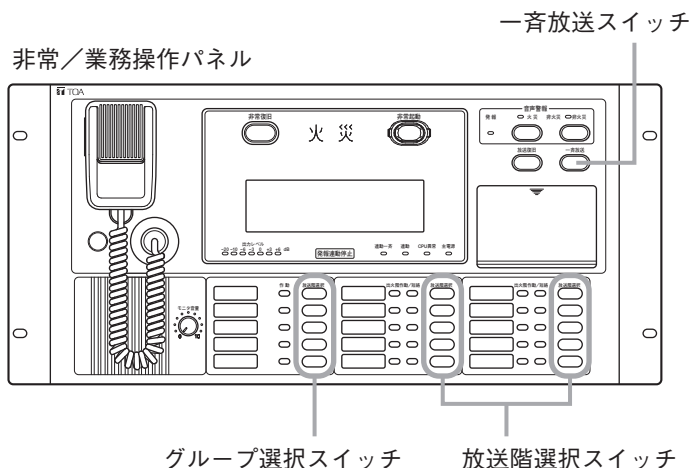


- 5** 放送場所を選択する。
ラジオ放送が始まります。

5-1 非常／業務兼用システムの場合

非常／業務操作パネルで操作します。
放送したい場所により、次のスイッチを押します。

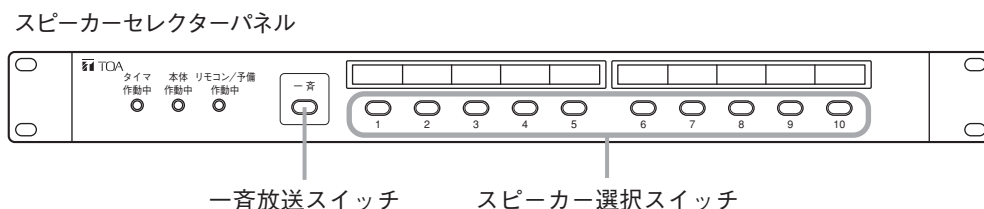
一斉放送 : 一斉放送スイッチ
グループ放送 : グループ選択スイッチ
個別放送 : 放送階選択スイッチ



5-2 業務専用システムの場合

スピーカーセクターパネルで操作します。放送したい場所により、次のスイッチを押します。

一斉放送 : 一斉放送スイッチ
個別放送 : スピーカー選択スイッチ

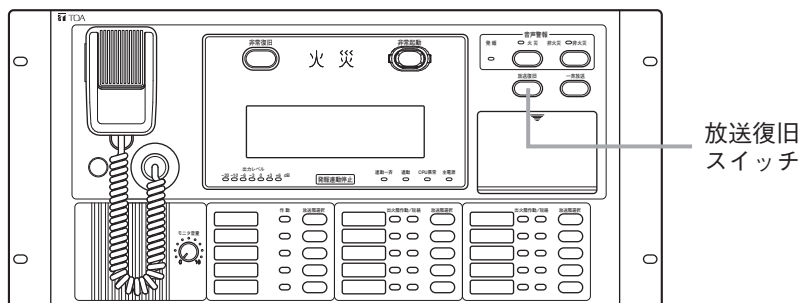


- 6** 放送を終了させるときは、放送場所を解除する。

6-1 非常／業務兼用システムの場合

非常／業務操作パネルの放送復旧スイッチを押します。

非常／業務操作パネル

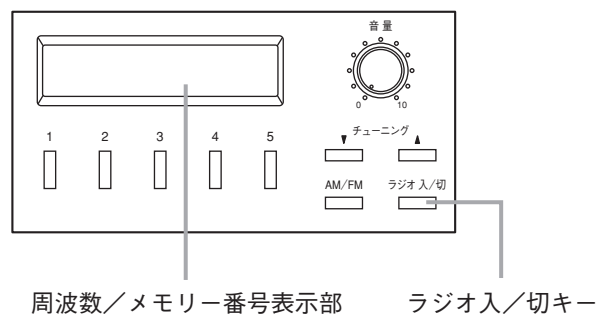


6-2 業務専用システムの場合

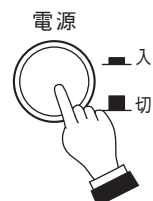
スピーカーセクターパネルで操作します。
手順 5-2 で選択した放送場所のスイッチをもう一度押します。

一斉放送 : 一斉放送スイッチ
個別放送 : スピーカー選択スイッチ

- 7** ラジオ入／切キーを押す。
周波数／メモリー番号表示部が表示が消え、ラジオが切れます。



- 8** 本機の電源スイッチを押して (■)、電源を切る。
パワーアンプなどシステム機器の電源も連動して切れます。



● 受信周波数のメモリーのしかた

AM 放送で 5 局、FM 放送で 5 局、別々に周波数を記憶させることができます。
記憶させた周波数は、そのメモリー／選局ボタンを押すだけで呼び出すことができます。

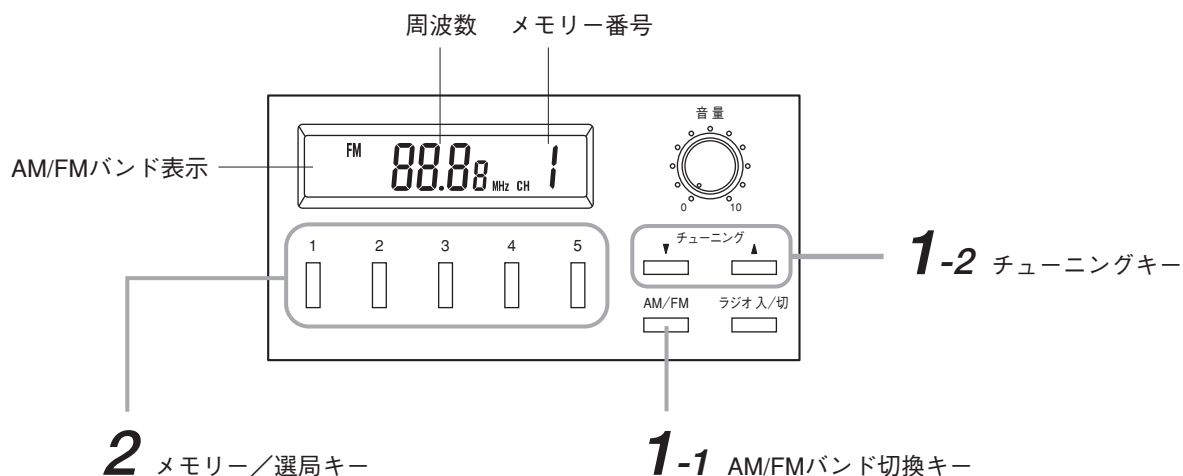
※ 電源が供給されなくても、メモリーの内容は保持されます。

- 1** 記憶させたい放送局の周波数に設定する。

- 1-1** AM/FM バンド切換キーを押して、AM 放送か FM 放送かを選択する。
押すたびに AM/FM バンド表示が切り換わります。

- 1-2** チューニングキーを押して、希望する放送局の周波数に合わせる。

- 2** 記憶させたいメモリー／選局キーを、表示部にメモリー番号が表示されるまで押す。
約 3 秒押し続けると、表示されます。



設置のしかた



警告

内部を開けての作業は、販売店にご依頼ください。
お客様ご自身で作業すると、火災・感電の原因となります。

■ チャイム音の選択のしかた

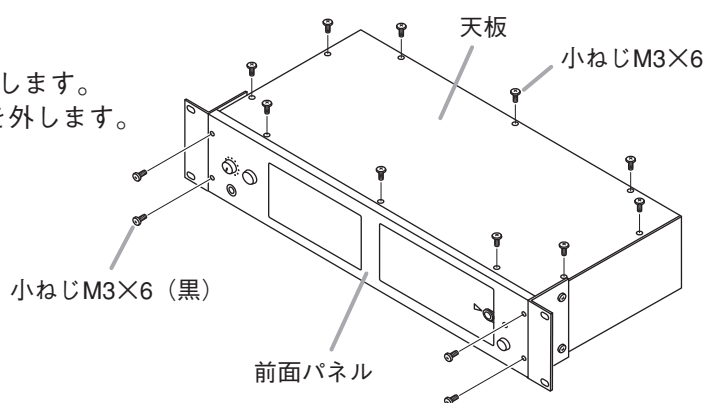
本機には、「上り4音（工場出荷時）」、「2音」、「1音」、「下り4音」の4種類のチャイム音が内蔵されています。

ご注意

チャイム音の選択は、本機をキャビネットラックに取り付ける前に行ってください。

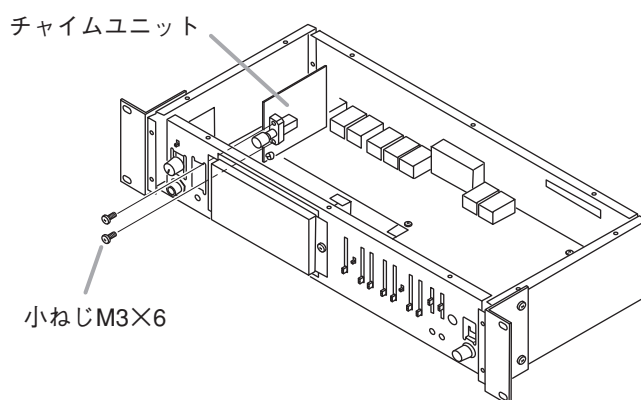
1 前面パネルおよび天板を取り外す。

- 天板：小ねじ M3×6（10本）を外します。
- 前面パネル：小ねじ M3×6（黒、4本）を外します。



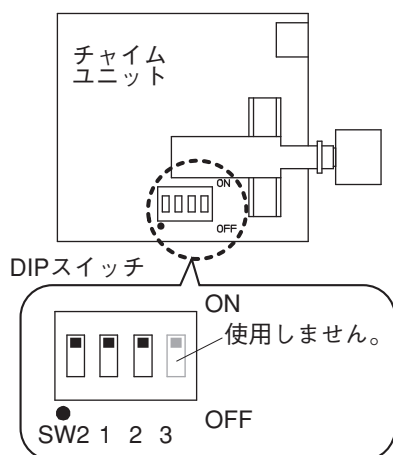
2 チャイムユニットを取り外す。

小ねじ M3×6（2本）を外します。



3 チャイムユニットのチャイム音を選択する。

チャイム音は、チャイムユニットの基板上的 SW2（DIP スイッチ）で設定します。



チャイム音	DIPスイッチの設定	チャイム音	DIPスイッチの設定
上り4音 (工場出荷時)	 ON OFF SW2 1 2 3	1音	 ON OFF SW2 1 2 3
2音	 ON OFF SW2 1 2 3	下り4音	 ON OFF SW2 1 2 3

4 チャイムユニットを、手順2で外したねじを使って元どおりに取り付ける。

5 前面パネルおよび天板を、手順1で外したねじを使って元どおりに取り付ける。

6 キャビネットラックに取り付けて配線した後に、チャイム放送音量を調節する。

(☞ P. 19「キャビネットラックへの取り付けかた」)

(☞ P. 24「チャイム放送音量の調節」)

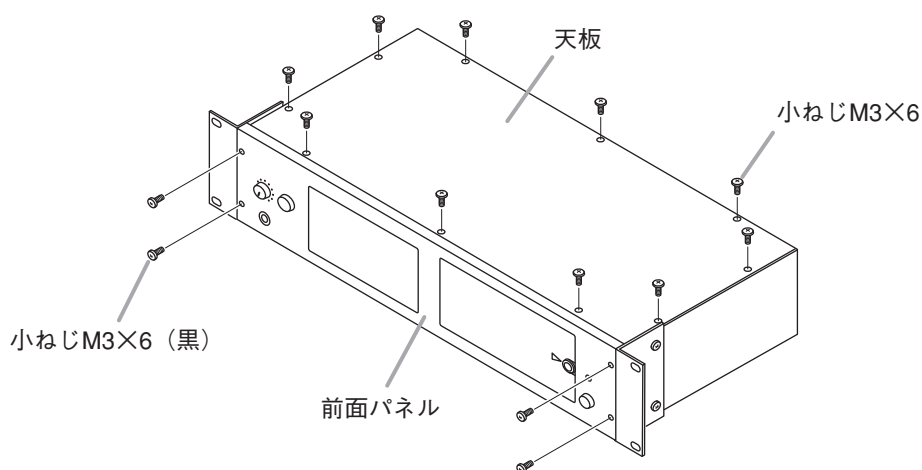
■ プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 (別売品) の取り付けかた

ご注意

本機をキャビネットラックに取り付ける前に行ってください。

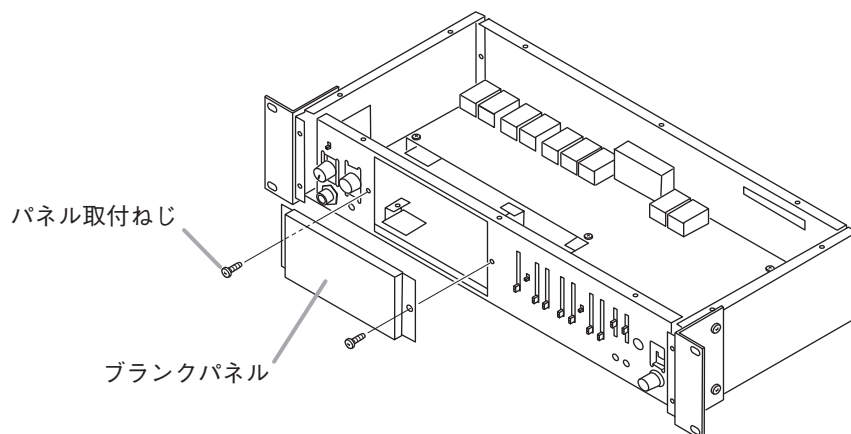
1 前面パネルおよび天板を取り外す。

- 天板 : 小ねじ M3×6 (10本) を外します。
- 前面パネル : 小ねじ M3×6 (黒、4本) を外します。

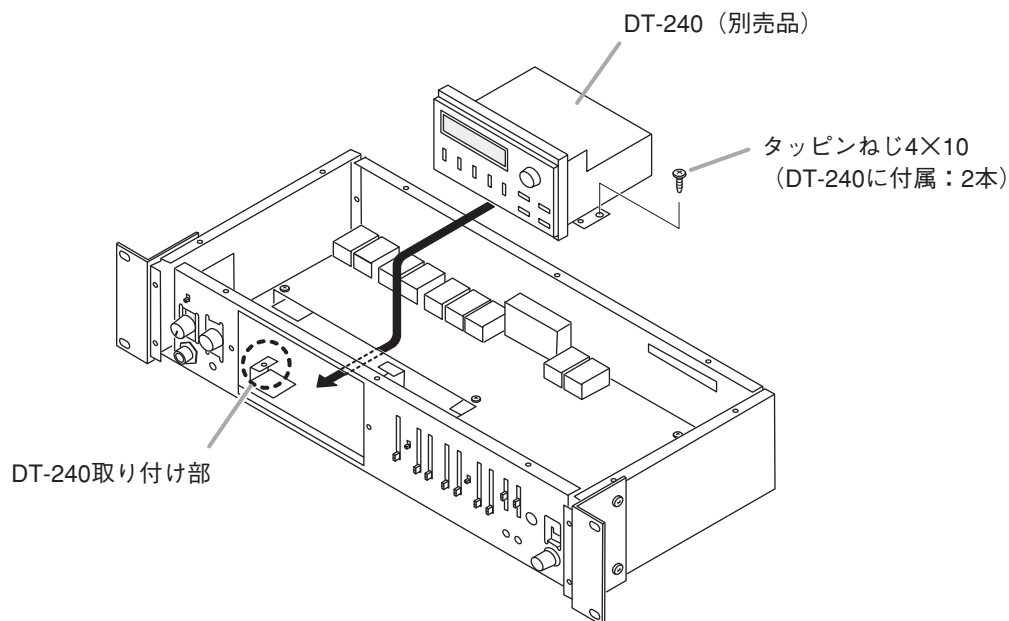


2 ラジオチューナー部のblankパネルを取り外す。

パネル取付ねじ (2本) を外します。



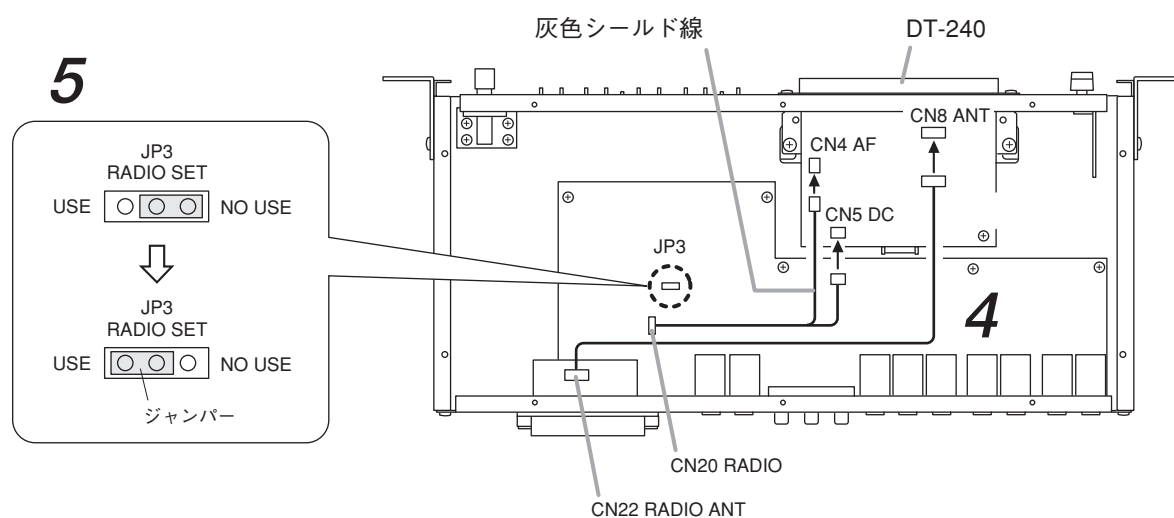
- 3** 本機にプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を取り付ける。
DT-240 に付属のねじ（2 本）で固定します。



- 4** 本機内部に束ねてあるコネクタ線（CN20、CN22）をほどき、ラジオチューナー部のコネクタ（CN4、CN5、CN8）に接続する。

ご注意

CN4 に接続するコネクタ線は、灰色のシールド線です。



- 5** 本機内部の基板上 JP3 のジャンパーを「USE」側に差し換える。

- 6** 手順 1 で外したねじを使って、前面パネルおよび天板を元どおりに取り付ける。

- 7** キャビネットラックに取り付けた後、アンテナ線を接続する。

(☞ P. 19 「キャビネットラックへの取り付けかた」)

(☞ P. 20 「接続のしかた」)

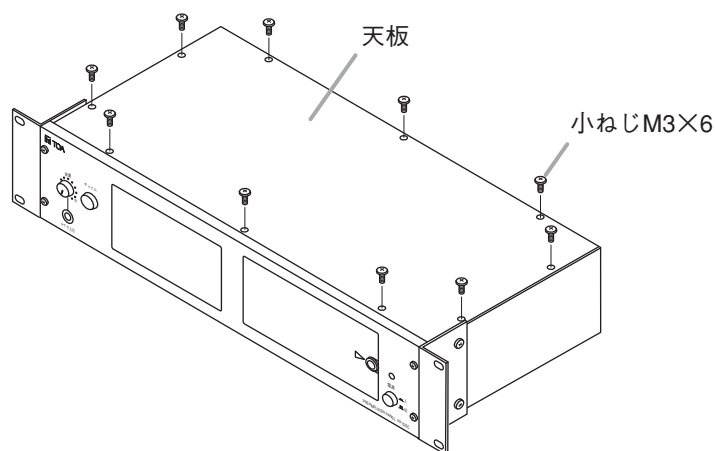
■ 平衡型トランス IT-450 の取り付けかた

ライン出力 2 を平衡型に変更するときは、別売の平衡型トランス IT-450 を取り付けてください。

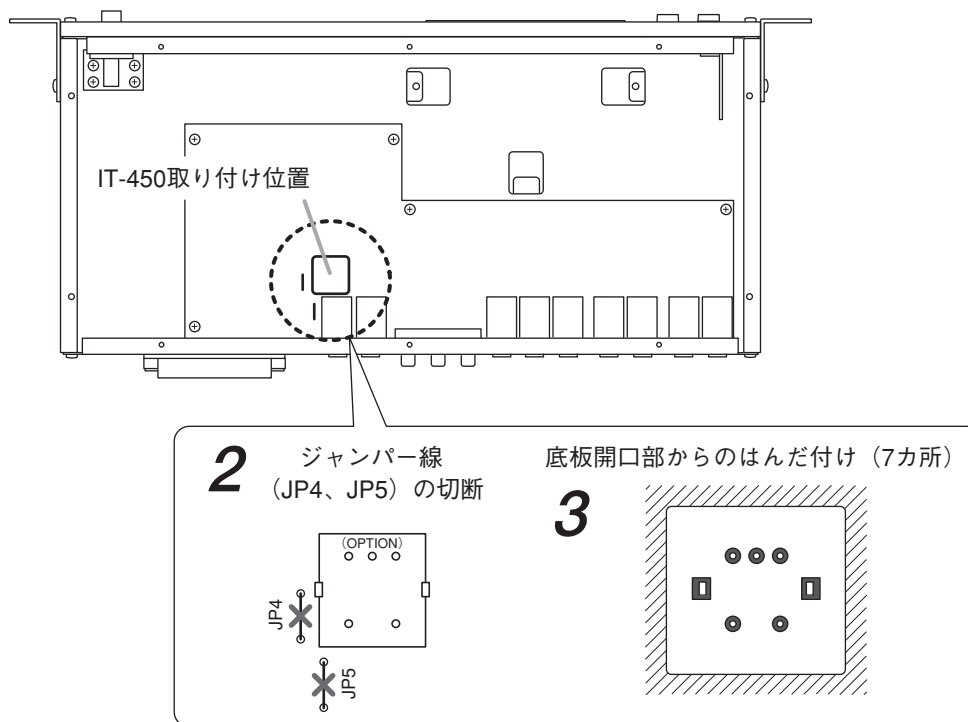
ご注意

本機をキャビネットラックに取り付ける前に行ってください。

- 1 天板を取り外す。
小ねじ M3 × 6 (10 本) を外します。



- 2 基板上の JP4 および JP5 をニッパーなどで切断する。



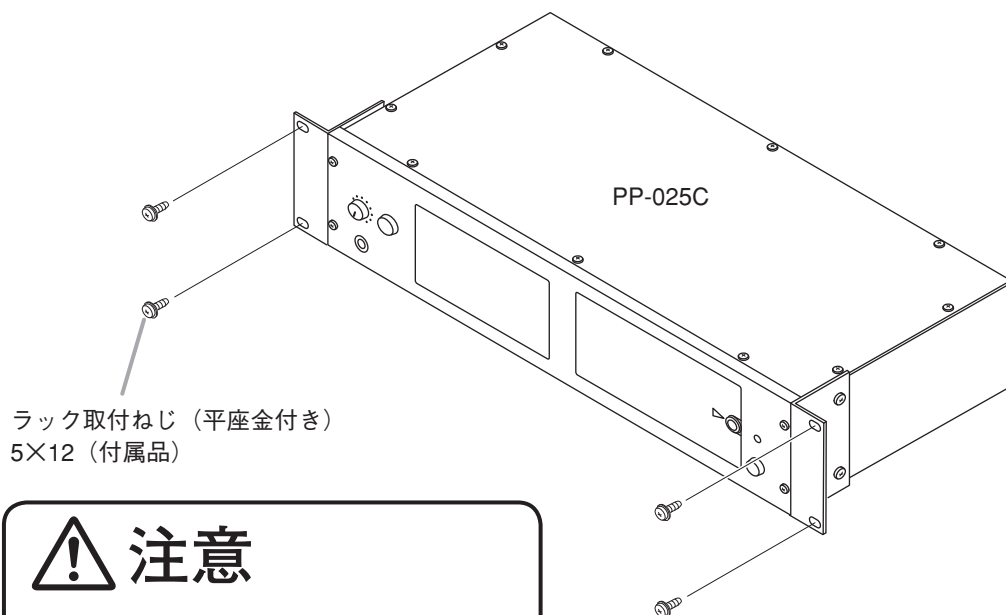
- 3 平衡型トランス IT-450 (別売品) を基板に取り付ける。
トランスを、部品取付面から基板に挿入して、底板の開口部から 7 カ所にはんだ付けします。

ご注意

トランスを差し込む方向に注意してください。

- 4 天板を、手順 1 で外したねじを使って元どおりに取り付ける。

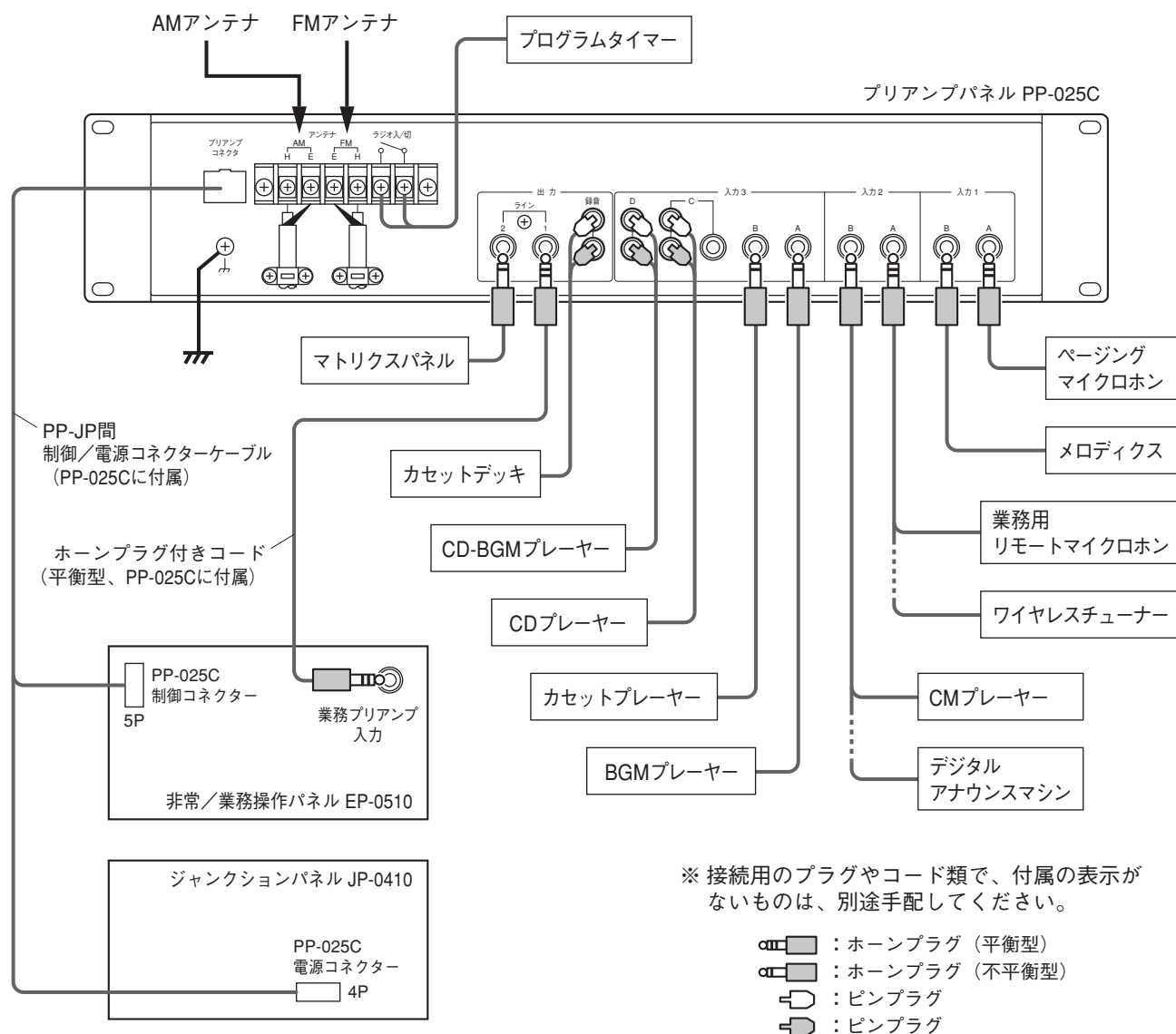
■ キャビネットラックへの取り付けかた



接続のしかた

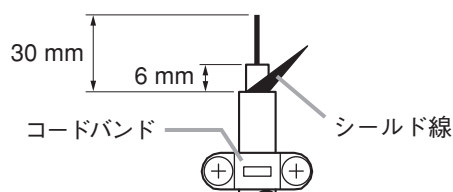
■ 非常／業務兼用システムの場合

- 入力の優先順位は、入力1 > 入力2 > 入力3 となっています。
- アンテナ線およびラジオ入／切りモート端子の接続は、別売のプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を組み込む場合のみ必要です。



[アンテナ線の接続]

- アンテナ線は、5C-2V 同軸ケーブルを使用し、シールド線がパネルに触れないように注意してください。
- アンテナ用同軸ケーブルの端末処理



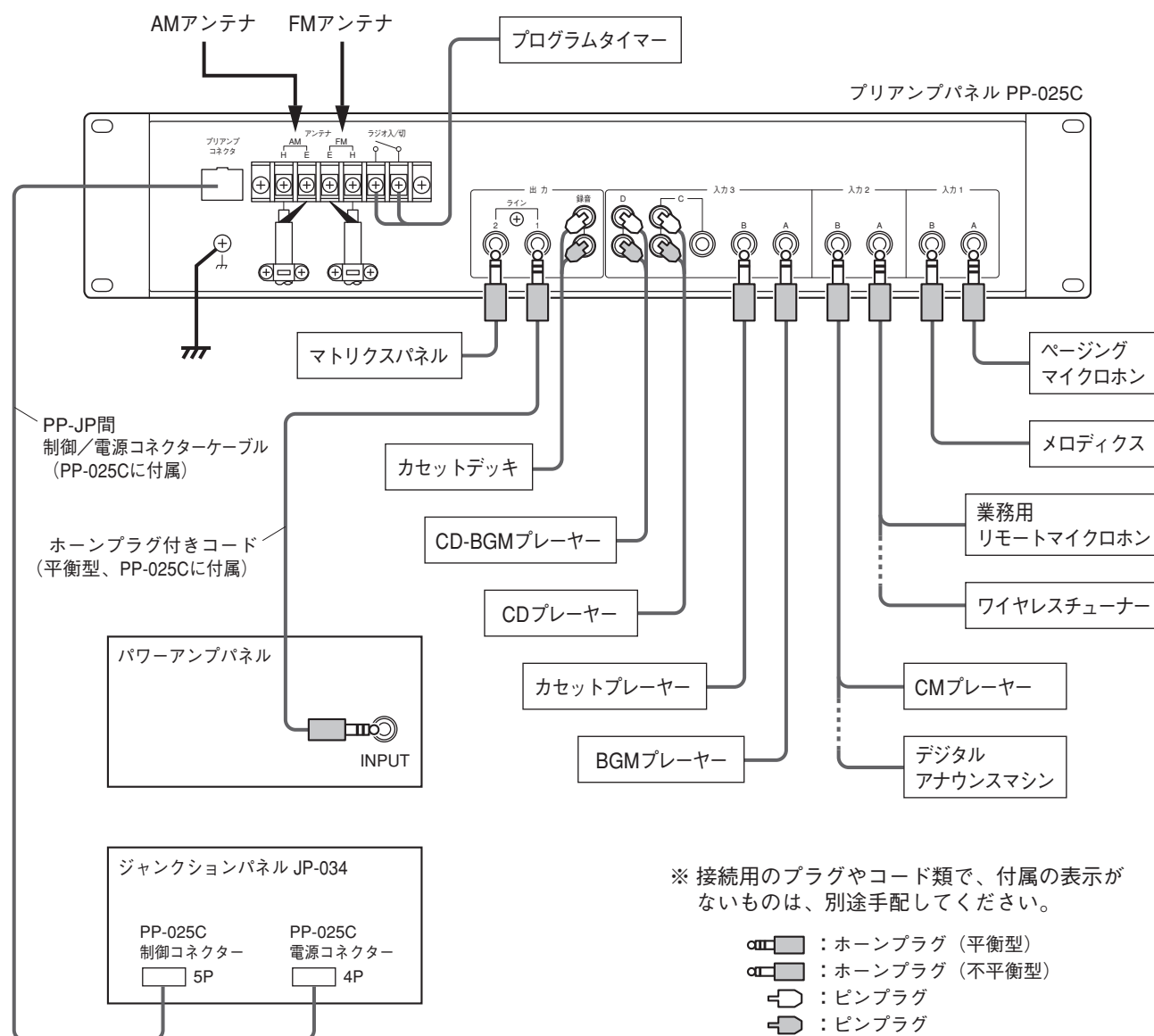
※ アンテナ線接続後は、後面パネルのコードバンドでアンテナ線を固定してください。

[ラジオ入／切りモート端子の接続]

- ラジオチューナー組み込み時のリモート入／切の制御は、無電圧メイク接点で行います。
- プログラムタイマーで制御する場合は、別売の TT-6803RME を使用してください。
- 接点を接続するときは、端子間に装着しているショートピースを取り外してから行ってください。

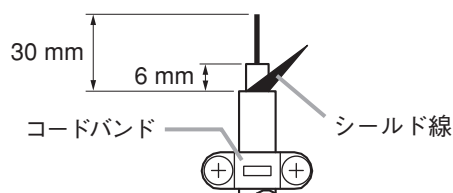
■ 業務専用システムの場合

- 入力 の優先順位は、入力 1 > 入力 2 > 入力 3 となっています。
- アンテナ線およびラジオ入／切りモート端子の接続は、別売のプリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 を組み込む場合のみ必要です。



[アンテナ線の接続]

- アンテナ線は、5C-2V 同軸ケーブルを使用し、シールド線がパネルに触れないように注意してください。
- アンテナ用同軸ケーブルの端末処理



※ アンテナ線接続後は、後面パネルのコードバンドでアンテナ線を固定してください。

[ラジオ入／切りモート端子の接続]

- ラジオチューナー組み込み時のリモート入／切の制御は、無電圧メイク接点で行います。
- プログラムタイマーで制御する場合は、別売の TT-6803RME を使用してください。
- 接点を接続するときは、端子間に装着しているショートピースを取り外してから行ってください。

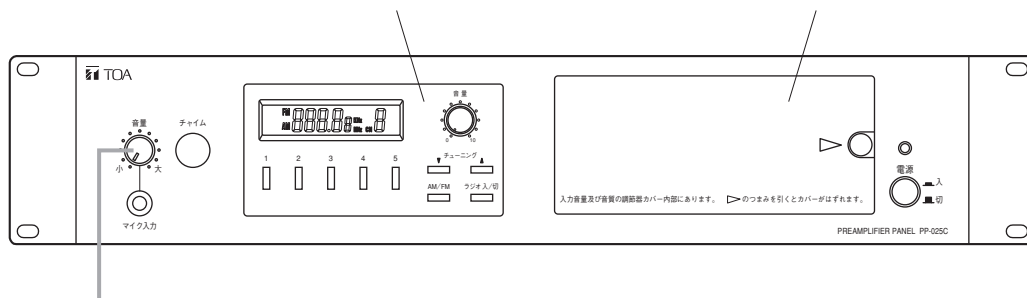
調節のしかた

以下の調節は、各機器およびスピーカーの設置・接続が完了した後に行ってください。

■ 音量・音質の調節

本機の各音量・音質を次のように調節してください。

[前面] プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 (別売品) 調節器カバー



マイク/ライン音量つまみ (入力1-A用)

あらかじめテスト放送を行い、適切な音量の位置を確認しておきます。
位置が定まったら、印を付けておくことをお勧めします。

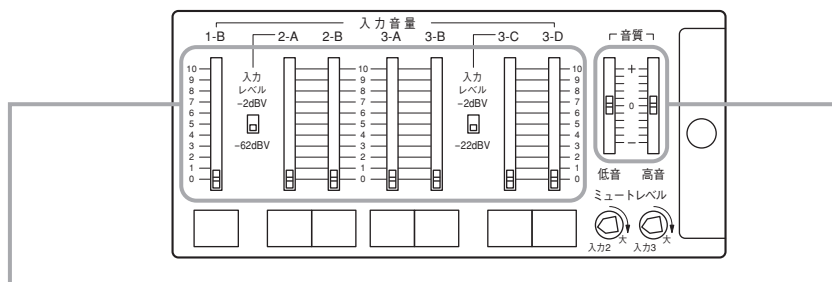
ご注意

テスト放送後は、反時計回りに回し切っておいてください。

● 調節器カバー内部

カバーの外しかたは、P. 9 をお読みください。

※ 調節後は、誤って調節器に手が触れないようカバーを取り付けておいてください。



入力音量調節器

あらかじめテスト放送を行い、適切な音量になるよう調節します。

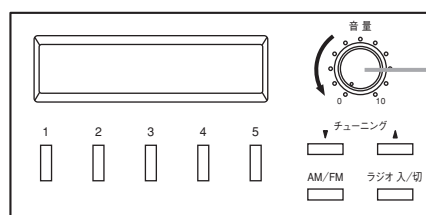
ご注意

放送で使用しない入力の調節器は「0」(最下位)にしておいてください。

音質調節器

あらかじめテスト放送を行い、適切な音質に調節します。

● プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 (組み込み時のみ)



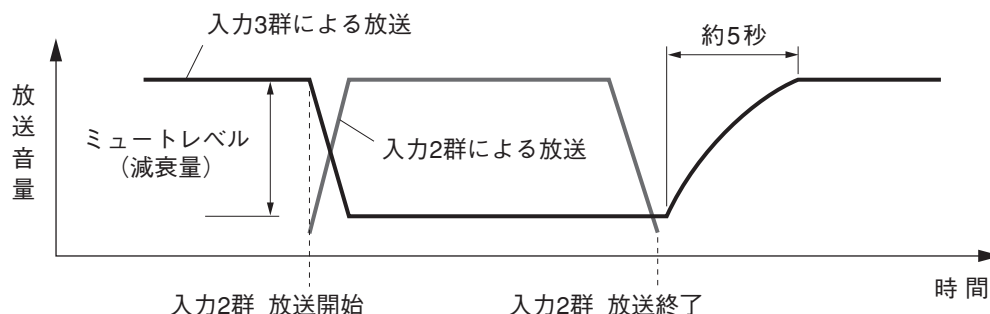
ラジオ音量つまみ

「0」の位置(最下位)にしておきます。

■ ミュートレベルの調節

本機の優先機能は、入力1群（1-A、1-B）＞入力2群（2-A、2-B）＞入力3群（3-A、3-B、3-C、3-D）の順に設定されています。

具体的には、入力3群の放送中に入力2群の放送が開始されると、入力3群の放送音量が一定量だけ減衰し、入力2群の放送が終了すると入力3群の放送音量が徐々に元の放送音量に戻ります。



● ご注意

- 優先順位（入力1＞入力2＞入力3）を十分に機能させるためには、入力2および入力3のミュートレベル（減衰量）の調節が必要です。
- 入力2のみミュートレベル調節を行い、入力3のミュートレベル調節を行わない（減衰量が最小）と、入力3に対しては優先機能が働かない（減衰しない）という状態になります。
- チャイムユニットは入力1に、ラジオチューナーユニットは入力3に、それぞれ設定されています。

● 調節のしかた

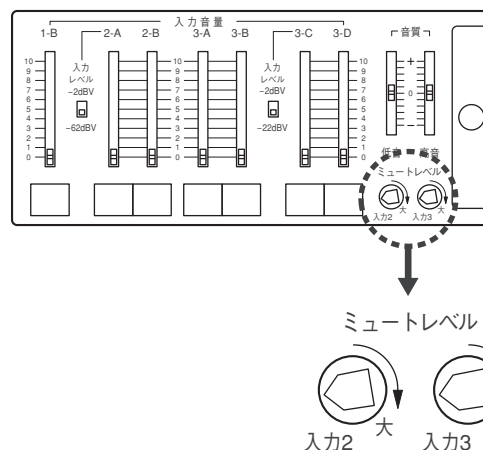
優先順位が高い入力群での放送が開始されたときのミュートレベル（減衰量）の調節をします。

ミュートレベル調節器は、前面の調節器カバー内にあります。調節するときはカバーを取り外し、調節後はカバーを元どおりに取り付けてください。調節するときは、⊖ドライバーを使用してください。

[入力3のミュートレベルの調節のしかた]

- 1 入力3群による放送を始める。
- 2 入力2群または入力1群での放送を始める。
- 3 入力3ミュートレベル調節器でミュートレベル（減衰量）を調節する。
時計回りに回すほど減衰量が大きくなり、入力3群の音量が小さくなります。

調節器カバー内部



[入力2のミュートレベルの調節のしかた]

- 1 入力2群による放送を始める。
- 2 入力1群での放送を始める。
- 3 入力2ミュートレベル調節器でミュートレベル（減衰量）を調節する。
時計回りに回すほど減衰量が大きくなり、入力2群の音量が小さくなります。

■ チャイム放送音量の調節

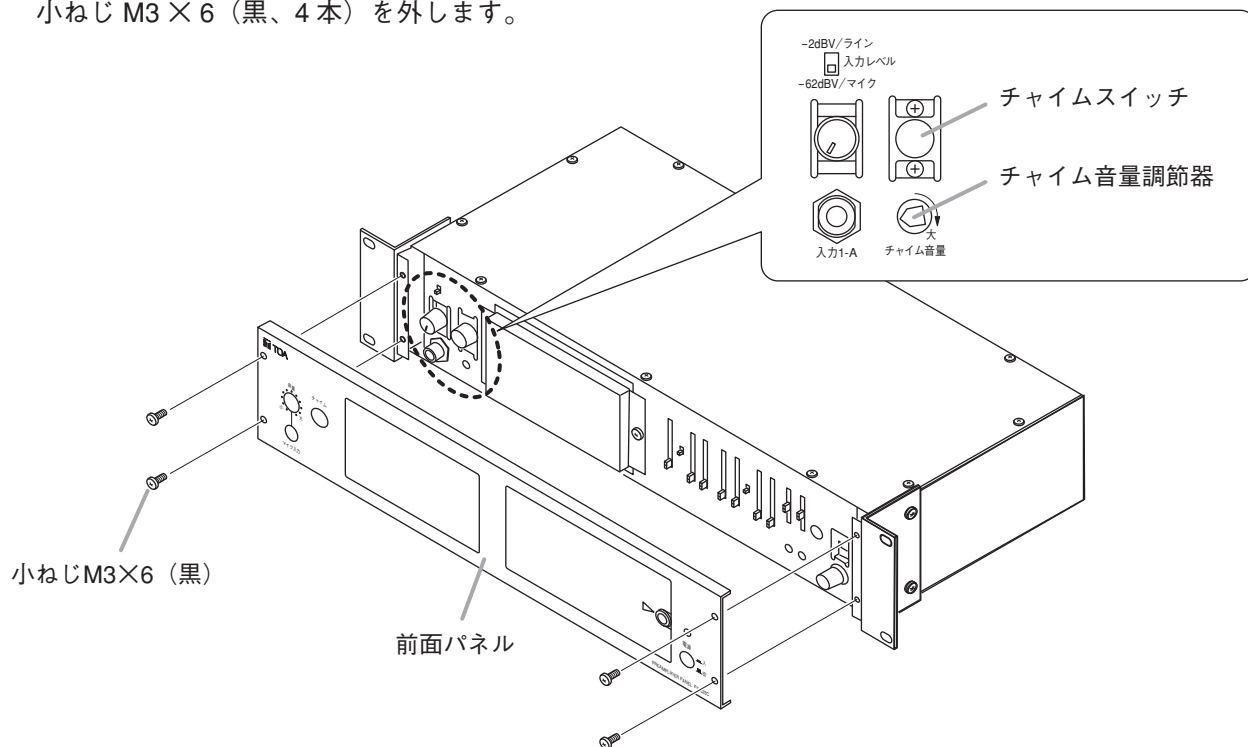
ご注意

メロディクスなどの外部チャイムを使用するときは、本機のチャイム音量調節器を最小（反時計回りに回し切った位置）にし、チャイム音出力されないようにしてください。

最小にしないと、本機のチャイムが外部チャイムと同時に起動し、チャイム音がミックスして放送されることがあります。

1 前面パネルを取り外す。

小ねじ M3 × 6（黒、4 本）を外します。



2 チャイムスイッチを押して、チャイム放送をする。

3 チャイム音量調節器でチャイム放送音量を調節する。

調節するときは、⊖ドライバーを使用してください。

時計回りに回すほど音量が大きくなります。

4 手順1で外したねじを使って、前面パネルを元どおりに取り付ける。

■ 入力レベル切換スイッチの設定

本機の入力 1-A、2-A、および 3-C は、接続する機器に合わせて入力レベルを以下のように切り換えることができます。

※ 下線は工場出荷時のレベルです。

入力 1-A : -2 dB^* $\Leftrightarrow$ -62 dB^* (前面パネルの取り外しが必要です。)
入力 2-A : -2 dB^* $\Leftrightarrow$ -62 dB^*
入力 3-C : -2 dB^* $\Leftrightarrow$ -22 dB^*

入力レベルの切り換えは、次のように行ってください。

ご注意

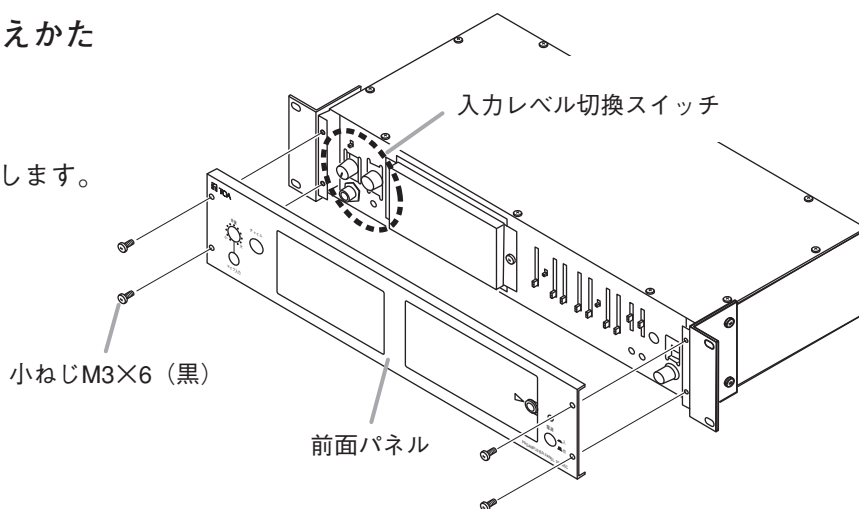
放送中に入力レベルを切り換えしないでください。ノイズ発生の原因となります。

● 入力 1-A レベルの切り換えかた

1

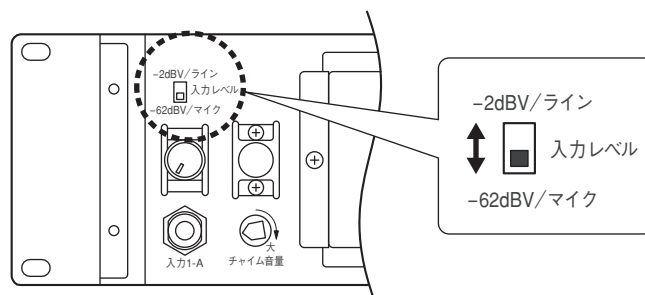
前面パネルを取り外す。

小ねじ M3×6 (4 本) を外します。



2

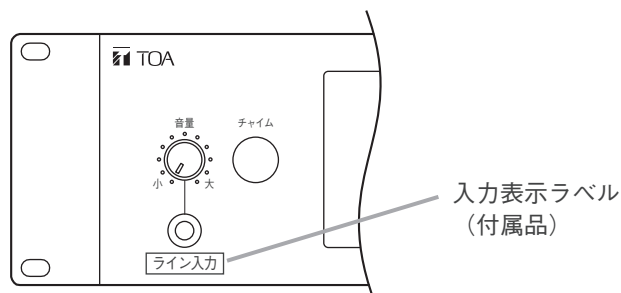
入力レベル切換スイッチで、レベルを切り換える。



3

-2 dB^* (ライン) 側に切り換えたときは、前面パネルの「マイク入力」表示の上に付属の入力表示ラベルの「ライン入力」表示を貼り付ける。

工場出荷時は、 -62 dB^* (マイク) 側に設定されています。



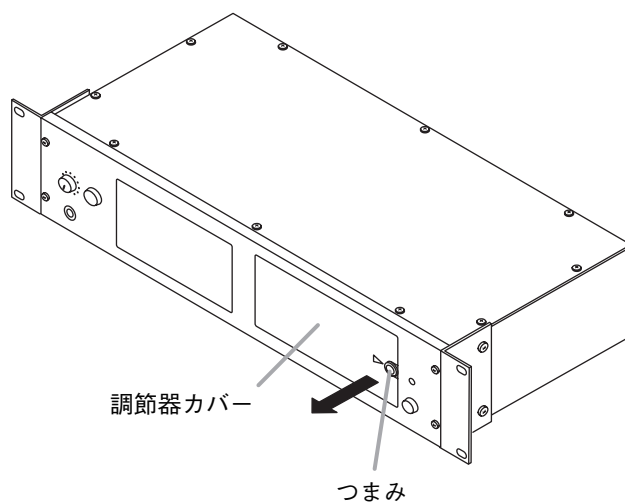
4

手順 1 で外したねじを使って、前面パネルを元どおりに取り付ける。

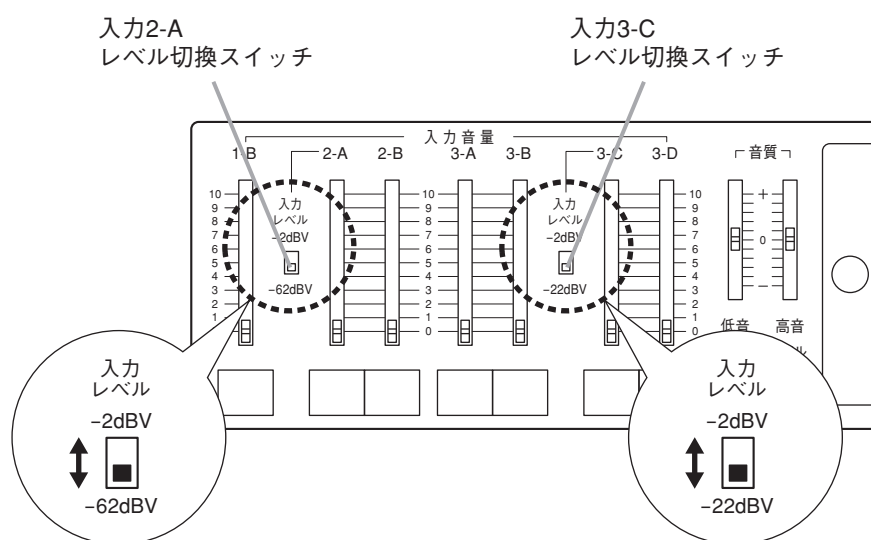
* $0\text{ dB} = 1\text{ V}$

● 入力 2-A および 3-C レベルの切り換えかた

- 1** 前面の調節器カバーを取り外す。
カバー右側のつまみを矢印方向に引いて、
カバーを外します。



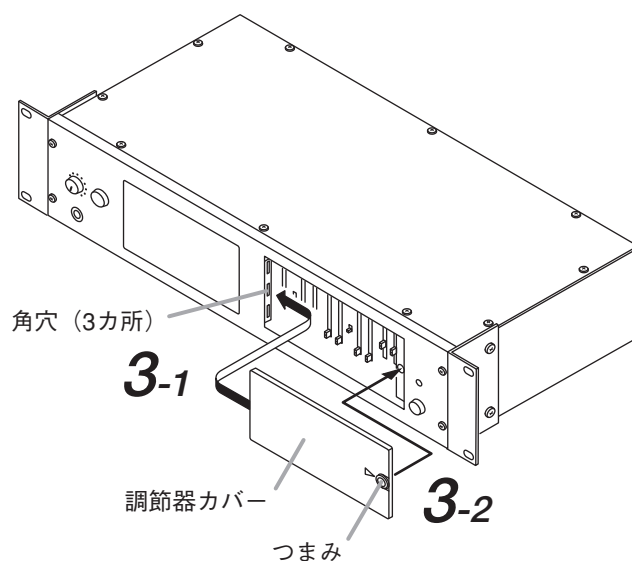
- 2** 入力レベル切換スイッチで、レベルを切り換える。



- 3** カバーを元どおりに取り付ける。

3-1 調節器カバー左側のツメ（3カ所）を、前面パネルの角穴に差し込みます。

3-2 カバーを定位置にし、右側のつまみを押し込みます。



仕 様

■ プリアンプパネル PP-025C

電 源	DC24 V (ジャンクションパネルから供給)
消 費 電 流	250 mA 以下
入 力	入力 1-A: -2 dB * / -62 dB * (切換式)、600 Ω、平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 1-B: -2 dB *、600 Ω、平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 2-A: -2 dB * / -62 dB * (切換式)、600 Ω、平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 2-B: -2 dB *、600 Ω、平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 3-A: -2 dB *、20 kΩ、不平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 3-B: -2 dB *、20 kΩ、不平衡、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 入力 3-C: -2 dB * / -22 dB * (切換式)、50 kΩ、不平衡、 φ 6.3 ホーンジャック (2 P) / RCA ピンジャック 入力 3-D: -22 dB *、50 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック
出 力	ライン出力 1: 0 dB *、600 Ω、平衡、全入力 (ただし、ライン出力 2 を使用の場合は 入力 1、2 のみ出力される)、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) ライン出力 2: 0 dB *、600 Ω、不平衡、入力 3 を出力、φ 6.3 ホーンジャック (2 P) 録音出力 : -10 dB *、5 kΩ、不平衡、ライン出力 1 と同じ出力、RCA ピンジャック
周 波 数 特 性	50 Hz ~ 15 kHz ± 3 dB 以内 (1 kHz 基準)
音 質 調 節	100 Hz、10 kHz において ± 10 dB
S N 比	60 dB 以上
歪 率	1% 以下
優 先 機 能	優先順位: 入力 1、入力 2、入力 3 優先信号: 入力レベルまたは EP-0510、JP-034 からの外部制御信号
電子音の種類	上り 4 音チャイム (出荷時)、2 音チャイム、1 音チャイム、下り 4 音チャイム
端 子 台	M4 ねじ端子、バリアー間隔 9 mm
仕 上 げ	パネル: プレコート鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶
寸 法	482 (幅) × 88.4 (高さ) × 218 (奥行) mm
質 量	3 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ホーンプラグ付コード (平衡型) 1
 PP-JP 間制御/電源コネクターケーブル 1
 入力表示ラベル 1
 ラック取付ねじ (平座金付き) 5 × 12 4

● 別売品

プリアンプパネル組込用ラジオチューナー: DT-240
 平衡型トランス: IT-450
 プログラムタイマー: TT-6803RME

■ プリアンプパネル組込用ラジオチューナー DT-240 (別売品)

電 源	DC16 V (PP-025C から供給)
消 費 電 流	50 mA 以下
受 信 方 式	スーパーヘテロダイン方式
受 信 周 波 数	AM : 522 ~ 1629 kHz (9 kHz ステップ) FM : 76 ~ 108 MHz (100 kHz ステップ)
音 声 出 力	-15 dB * (負荷抵抗 22 k Ω)
メ モ リ ー 局 数	AM、FM 各 5 局
使用温度範囲	-10 ~ +40℃
使用湿度範囲	90% RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル : ABS 樹脂、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶、塗装
寸 法	140 (幅) × 70 (高さ) × 107.4 (奥行) mm
質 量	250 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

タッピンねじ 4 × 10 2

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル 0120-108-117	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。	ナビダイヤル 0570-064-475 (有料) FAX 0570-017-108 (有料)	
受付時間 9 : 00 ~ 17 : 00 (土日、祝日除く)	※ PHS、IP 電話からはつながりません。	
当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。		

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-02-00121-03